

第 1 回 伊方町総合教育会議議事録

【日 時】 令和 4 年 10 月 24 日（月） 14：55～16：40

【場 所】 伊方町役場 3 階 会議室

【次 第】	1. 開会	2
	2. 町長あいさつ	2
	3. 教育長あいさつ	2
	4. 議題	
	(1) 伊方町教育振興に関する大綱について	3
	5. 副町長あいさつ	31
	6. 閉会	32

【構成員】 伊方町長 高門清彦

伊方町教育委員会

教育長 中井雄治

教育長職務代理者 道元 平

教育委員 阿部勇二

教育委員 藤川美喜

教育委員 西村美重

教育委員 行天雅史

【事務局】 町長部局

濱松副町長、菊池総合政策課長、他担当職員 2 名

教育委員会事務局

阿部事務局長、他担当職員 5 名

【傍聴者】 なし

1. 開会

(菊池総合政策課長)

皆様お揃いでございますので、ただ今から、令和4年度第1回伊方町総合教育会議を開催いたします。

まずはじめに、町長からご挨拶をお願いいたします。

2. 町長あいさつ

(高門町長)

皆さんこんにちは。

本日は大変お忙しいところ、令和4年度の伊方町総合教育会議にお集まりをいただきまして、大変ありがとうございます。

また日頃から教育委員会事務局の皆さん、さらに教育委員の皆様方には伊方町の教育行政の推進に格別のご理解とご協力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

この会議は御承知のとおり、法律の改正によりまして、平成28年度に設置をしたものでございます。

その目的は、行政と教育委員会が十分な意思疎通を図りまして、本町の教育の課題やあるべき姿を共有しまして、より一層の町民の皆様方の御意見を反映した教育行政の推進を図るためのものということになってございます。

この会議におきまして、伊方町教育振興に関する大綱を制定し、教育行政に取り組んでいるところでございますけれども、御承知のとおり先般の新聞報道でありましたように、2060年に伊方町の人口が1,898人という県下で最大の減少率というショッキングな報道がなされております。

そのことによってこどもの数の方も既に激減しております。今後それを受けて、町の教育行政をどうするかというところで皆様方のお知恵をお借りして、学校再編に関する検討会の開催では、大変御努力ご協力をいただいているところでございます。

そういった中で地域の宝であります子ども達によりよいふるさとを、よりふるさとを愛してもらうために、よりよい環境の中で学習ができる。そういった環境をつくるのが、行政としての役割であろうと思っております。

本日の会議が、ぜひ有意義な会議になりますことを心からお願いを申し上げまして、開会に当たりましてのご挨拶にかえさせていただきます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

3. 教育長あいさつ

(菊池総合政策課長)

ありがとうございました。

続きまして、中井教育長からご挨拶をお願いいたします。

(中井教育長)

本日の総合教育会議の御参加ありがとうございます。

御承知のように、現在の社会情勢は非常に厳しいものがございます。

新型コロナウイルス感染症の対応、それから戦争による世界経済への影響等もあり、教育においても感染症対策やそれによる児童生徒、教職員のストレスの増加、家庭の貧困化等々、大きな影を落としております。

また、伊方町においても先ほど町長も述べられましたけれども、人口減少、少子化が顕著となり、学校の小規模校化が進んでおります。

そのような中、こども達の教育環境をどう活性化させ、よりよいものにしていくのかという方向を示す、そういう必要性に迫られております。

この問題については、学校再編検討委員会が設置され、本年度内には報告が行われる予定です。

また、ICT教育やグローバル教育、ふるさと教育の推進、社会教育、社会体育、そのような活動の活性化や文化活動の振興、また、佐田岬半島ミュージアムの設置、運営等々、教育課題が山積している現状があります。

伊方町の教育にとって大変、この総合教育会議は重要な会議でありますので、しっかり協議をしていただき、町長のお考えと、伊方町教育委員会の方針を一致させ、こども達や町民の皆様の教育や生涯学習について、よりよい方向を目指していければと思います。そして、今後の伊方町教育にしっかり反映させ、教育行政を進めていきたいと思っております。

皆様の忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。

(菊池総合政策課長)

ありがとうございました。この会議の進行につきましては、私、総合政策課長、菊池が、進行させていただきます。

どうかよろしくお願いいたします。

4. 議題

(1) 伊方町教育振興に関する大綱について

(菊池総合政策課長)

それでは、本日の次第にあります議題1でございますけれども、「伊方町教育振興に関する大綱について」でございます。この件につきましてまず、事務局のほうから説明をさせていただきたいと思っております。それではよろしくお願いいたします。

(阿部教育委員会事務局長)

それでは、施策の方針に沿った、昨年度の会議以降の取り組みについてご説明させていただきます。失礼ですが、着座にてご説明させていただきます。

お手元の資料「伊方町教育振興に関する大綱」の3ページに施策の方針、4ページ以降に施策の展開がございます。この4つの方針に基づきまして、本年度、教育委員会が取り組んでいる施策等についてご説明いたします。

まず、方針1の「学校教育の充実」に関しましては、いまだ収まらない新型コロナ

ナウイルス感染症対策につきまして、細心の注意をはらいながら、必要な環境整備に随時、取り組みつつ各種施策を進めております。

生きる力の育成という事で、英語力の向上を目指しておりますが、新型コロナで遅れておりましたALTの適正配置が、現在整っております。小学校では、英語学習による異文化にふれあい国際感覚の醸成に資するため、各公民館で英語教室を開催しております。

「情報教育」については、現在、全小中学校に配備されております一人一台のタブレット端末をコロナ禍においての持ち帰り学習等にも活用しておりますが、小学校のタブレットにつきましては、導入から7年近く経過しており故障頻度も上がってきたため、今年度更新を行います。

また、今年度より情報教育推進校として瀬戸中学校を指定し検討と取り組みが進められているところでございます。

また、町内小中学校の再編につきましては、昨年12月に伊方町学校再編検討委員会を立ち上げて以降、今日までに6回の会議が開催され現在も検討が行われているところでございます。

次に、方針2の「生涯学習・生涯スポーツの活性化について」でございます。各種事業の実施にあたっては、基本的には実施の方向で準備を進め、その都度、予測される感染リスクを精査し、規模縮小、延期、中止等を判断しておりますが、その判断の際には安易に中止とするのではなく、まずはできる事をできるやり方で検討する方針で取り組んでおります。

実施した事業としまして、まず今年の1月には、延期となっていた令和3年度と令和4年度の成人式を開催する事ができました。

また、6月には伊方町出身の俳人、坪内稔典先生をお招きし講演会、吟行会を実施し参加者からは好評を得ていますが、これにより今後の事業につながる坪内先生とのつながりができた事も成果の一つです。

「学校家庭地域連携推進事業」の今年度からの新たな取り組みとして、土曜教育活動をスタートしました。現在までに小学生対象の「木工教室」「陸上教室」「絵画教室」を開催しております。来月には中学生対象のプログラミング教室を予定しております。

スポーツの分野におきましては、競技中の感染対策の難しさから各種事業の実施についてより慎重な判断が必要となりますが、佐田岬マラソンについては中止となったものの、8月にはバレーボール教室を、10月にはねんりんピックリハーサル大会を、無事開催する事ができました。

また、プロバスケットチーム「オレンジバイキングス」の公式戦につきましても、実施の方向で準備を進めております。

次に、方針3の「伝統・文化の継承と発展」に関しましては、佐田岬半島の伝統文化と文化財を守りながら、地域の魅力づくりにつなげる活動を継続しております。

特に地域博物館につきましては、名称が「伊方町文化交流施設佐田岬半島ミュージアム」に決定し、建築が進んでおります。来年度上半期中のオープンを目指し準備を進めているところでございます。

また、昨年8月からSNSでの配信を開始したデジタル博物館も徐々にフォロー数を伸ばしており、次の展開を検討しているところでございます。

最後に、方針4の「信頼と協働で創る全員参加のまちづくり」に関しましては、こちらにも新型コロナウイルスの影響で、地区別人権・同和教育懇談会をはじめ、各種研修会への参加等、事業が中止を余儀なくされておりますが、こちらにつきましてもできる事をできる方法で着実に、町民が一体となった人権・同和教育をはじめ、男女共同参画の推進に努めたいと思っております。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

(菊池総合政策課長)

ただいま、教育委員会事務局から、教育振興に関する大綱につきまして施策の方針等の説明がございました。この大綱に基づきまして、いかに伊方町の教育の充実を図っていくかについて意見交換に移りたいと思います。ここからは、自由な意見交換ということで進めさせていただいたらなと思います。どなたからでも結構でございますので、御意見、御提言、御要望等ございましたら、御発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○阿部教育委員

教育委員の阿部です。7年前に教育委員に就任しましたが、7年後にこどもの数がこれだけ減るのかというのを身に染みています。この急速なこどもの数の減り方、いわゆる人口の減りようには恐怖、危機感を感じております。

この教育会議も始まってから7年目にもなるんですけど、町長と私たち教育委員が同じ気持ちで、同じ認識を持とうという会だと思っておりますので、質問とかそういうものじゃなくて、やっぱりこうですよねという話ができたらと思います。よろしくお願いいたします。

まず学校教育の充実というのが最初の問題になるんですけども、本当に少ない人数の学校の中で特に「瀬戸地域」「三崎地域」の小学校のほとんどが、完全複式になっております。なかなか大人数での多様な意見が聞けない中ですが、おかげさまでICT教育がすごく進んでいると感じました。今年、私たちが学校訪問をさせていただいた時も、違う学校同士がタブレットで結ばれていて、三崎小学校の授業で大久小学校や三机小学校のこどもの意見が自分の前に映し出されるというすごい授業をしていて、そこまで進んだのかと思いました。

それは我々の訪問時に限った授業ではなく、そういう授業が日常に行われているということが非常にすごいなと感じました。小人数を逆手にとった教育をするためにすごく充実したことをしていただいているなと感じました。そのためにタブレットの機器更新もそうなんですけども、ありがたいなと思っております。

先生方の負担も多いと思えますけども、こども達がタブレットを使う器用さもすばらしい。これからのICT教育、グローバル化にも本当に役立つなと思えます。

教育長の挨拶の中に「ICT教育」「グローバル教育」「ふるさと教育」があるんですけど、やはり1番はこども達に、自分たちが育っているこの伊方がこんなにすばらしい所なんだよということを教える教育をして行かない限り、人口減少

に歯止めは効かないのかなと思っています。

外から人を集めるというのも、もちろん大事なんですけど、まず足元を固める。今、自分がここで生活している私たちや私たちの息子年代も含めて、自分たちがここでどんな生活をしてきたのかというのを胸張ってこども達に伝えていけるような教育ができたなら常々思っていますが、とにかく種をまいて水をやってもなかなか花が咲かず、実になるのは時間がかかると思いますが、待たなしのところに来ておりますのでいろいろ頑張っていきたいなと思います。何の質問にも何の意見にもなりません、そういうことを常々思いながら毎日やっております。

○高門町長

ふるさとを愛する教育というのはおっしゃるとおり非常に大事だと思います。今年特に思ったのが「祭り」です。もう3年連続で祭りが中止になっていたのも、地区によっては本当に継続できるかという心配も一方でしています。地区によっては実施していただいた地区もありましたが、やっぱり祭りはいいなというのが皆さんの感想でした。

先般の土曜日にマルシェで、役場前の駐車場にて中之浜の唐獅子を演じたのですけれども、その時には本当に大勢の方に来ていただきました。やはりああいう活気というのは大事だなと思いましたし、こども達にとっても、そういった地域の伝統とか、そういったものを伝えるというのが、本当に大事なことなんだなということを再認識させられたような気がします。本当にありがたいことに三崎高校で地域の祭りを守ろうということで、伝統行事を高校生が頑張ってくれてるっていうのは非常に頼もしいことだと思います。そういったことを義務教育、こども達、小中学生にも伝え、教えていっていただきたいなっていうふうに思います。

行政としてできることは、今すぐには思い浮かばないんですけども、そういったことにご協力できることがあればやっていきたいと思っています。

○阿部教育委員

「祭り」そうですね先ほども、委員でいろいろ話してたんですけど、やっぱり大事だと思います。祭りが復活したらこれだけ賑やかになるんだということもありまして。

三崎高校は特に県外から来たこども達を中心になって動いてくれている。地元の青年団がそれを指導するという形が本当にできていて素晴らしいことだなと思います。

先日も大久で大和ハウスとの協定締結式を行った時にも演じました。藤川委員が言われるには地元の人が高校生の演じている姿を見て涙を流していたとのことでした。

本当に何年も祭りが無い中、にぎやかな太鼓や唐獅子、五つ鹿の音を聞いて嬉しかったと。やっぱり「祭り」に対する思いというのは強いんだなと思いました。私の母校ですけども、高校のためにも本当に行政にいろいろ踏み込んだことをやっていただいているので、答えられることは全力で答えなさいよとこども達にも

言ってます。

先日の土曜日に 60 人を超える中学 3 年生が、1 日体験入学に来てもらって、うれしい限りです。県外から来ているこども達にも 1 人でいいから、卒業後にここに残って何かしようかということも、そろそろ生まれてほしいという話も日頃からしています。そういうふうになっていきますので今後ともよろしくお願ひします。

○高門町長

祭りの方は関係者から道具を買ってくださいと言われます。それは行政に頼らず自分で何とかしてくださいということで進めていますが、側面からサポートしたいと思っています。

○道元職務代理

先ほどの ICT 授業タブレットの活用で、私が学校訪問に行った時に複式学級は低学年の 3 年生ぐらいまでは従来の教育のやり方のほうがいいんじゃないかと思いました。複式授業の場合、タブレットを活用すると 1 学年 2 学年背中合わせで、モニターのほうに向いて先生がその半分ずつ、他学年の間を行き来して授業をしていることが多いです。従来のタブレットをまだ使わない頃の授業は両方が正面を向いて、半分ずつ教育していると思うのですが、やはり 1 年生は特にその学力の差がまだ全然揃っておらず、4 月生まれの子と 3 月生まれの子で 1 年間のブランクがあります。そのため小学校に上がる前の保育園、幼児教育っていう部分にやはり力を入れていってほしいと思っています。

今、伊方町は保育園しかないんですけど、幼稚園の教育も含めて保育の部分の役割も担うような施設が伊方町にもできたら理想的だという話がありまして西村委員にはその辺はすごく共感していただきました。

○西村教育委員

私は教育現場にも勤めているのですが、小学校に入学した 1 年生の時点ですでに差があります。

字が書ける子、字が読める子で、縄跳びができる子と跳び箱ができる子、大体幼稚園ではそういうことをされているので、伊方町もぜひ幼児教育のほうをしていただけたらありがたいです。

○高門町長

これは資格とか何か必要ですか。

○西村教育委員

幼稚園の免許が必要になります。

○高門町長

保育所側の意見はどうですか。

○中井教育長

その辺りのすり合わせはまだやってないのですけれども、幼児教育の必要性は前々から、はっきり言ってみれば、従来の家庭教育ほど、今十分に家庭教育ができてきているのかというようなところがあります。

就学前の教育というのが求められる中で、道元委員も言われました保育もできて幼稚園教育もできるというのであれば、認定こども園というような形があると思います。この認定こども園というのは、幼稚園を行って午後からは保育というような形です。他の市町も徐々に導入し、鬼北町などもそういった状況になってきております。

やはり従来の保育園だけというのでは、なかなかこれからの就学前教育というのは対応できないだろうというところで、本町もそういうところを検討していく必要があるのではないかと思います。

大綱についても、基本計画についても、将来の認定こども園構想というのはある程度書いておりますので、こういうところを進めていくのも、もうそろそろじゃないかと思えます。

○高門町長

これは保育士の数やいろいろなものがあるのですか。

○中井教育長

保育士の数のバランスはとらなければいけないと思いますが最近の若い方は保育士と幼稚園と両方の免許を持っておられる方が多いです。教員も幼稚園免許を持っている教員というのはおります。ですからその辺である程度対応ができるのではないかと。器についても考えていけば廃校利用であるとか、新しくその施設をつくらなくても、そういうようなことも考えられます。

検討の余地があるのではないかと思います。

○高門町長

わかりました。まだ具体的なイメージは湧いてきませんが研究、勉強させてもらいます。

○藤川教育委員

保育園は、基本的に自由にのびのび安心して遊べる場所と捉えている方が多いかと思えます。

ただ、小さいうちはもちろんそれで十分親御さんの要求を満たすと思うんですが、ある程度年長になったときに、自分のこどもの可能性を少しでも引き出してほしいといった願いを子育て世代は持っているのではないかと思います。

例えば、先ほど西村委員が言われたような、本来なら小学校に入って「みんなで字を書きましょう」と言うのですが、もう既に書けるようになっていく子もかなりいます。「ほかの子はできるのに自分の子は・・・」というような、ちょっと

不安な気持ちを解消するのであれば、少なくとも成長段階に合わせて年長児に対しては少しずつ教育的なそういうのもできたらいいなと先ほど話をしていました。

全てを小さい頃からするのではなくて、小学校への橋渡しとして、そういった人員等課題もあるかもしれませんが、保護者のニーズはあるのではないかと考えます。

○高門町長

気持ちはわかります。ただ、今の保育所でそれが対応できるかどうか。保育士はゼロ歳児から見ないといけない中で、そういった教育まで手が回るのか。そうしたら人数を増やしてくれということになるかと思います。

スペース的には廃校を利用したら施設はできるけれども、人といろんな設備、ちょっと色々なものが、頭の中で今ぐちゃぐちゃになっています。

○藤川教育委員

伊方町は今、保育所しかなくて幼稚園に行こうと思ったら、八幡浜市に行かなくちゃいけないじゃないですか。

でも、やっぱり伊方町にそういう施設、こども園でありそういう教育所、小さい頃から教育ができる場があるとしたら、新しく来られようとする方もちょっと増えるのじゃないのかなと思います。

○高門町長

それを期待しています。

○藤川教育委員

仕事をしてたら2時までの幼稚園というのは難しいので、大体今は皆さん共働きの多いので幼稚園には入れられないというのも事実だと思うんですよ。

こども園は午前中が幼稚園、午後が保育園で4時から5時ぐらいまで見ていただけたとなると、本当にありがたいと思う保護者が多いと思います。

○高門町長

それはありがたいと思いますよ。それにどれだけの、どういう人も含めているのかというのは、ちょっと精査させてもらわないといけません。分かりましたとはまだなりません。

○藤川教育委員

前向きにお願いします。

○高門町長

勉強させてください。

○道元職務代理

熱心な家庭は八幡浜の幼稚園に行かせてるのでその辺りが対象になるのではないのでしょうか。特に、小学校1、2年生では、スタート地点に立ててない子に、支援員をつけるという形でサポートしないといけない状況が出てきてるので、その辺が結構カバーできるんじゃないかと思うところがあります。

○高門町長

繰り返しになりますけども研究させてください。保育園側に投げかけたときに、どういう反応がでるかですね。

○藤川教育委員

そうですね、資格が要ることですから幼稚園教諭の免許も持ってる方がいられたら、割と取り組みやすいかなとも思うのですが。その辺りは現状がちょっとわからないです。

○行天教育委員

幼児教育を導入すれば落ちついた1年生がスタートできると思います。

○高門町長

例えば、伊方地域につくるとそんな遠いところまでは連れて行けないから瀬戸や三崎にも作るようになりませんか。

○道元職務代理

自分のこどもとなると連れて行きますよ。八幡浜・保内のそういう場所にもね。本当に車で皆さん連れていってるので。そういう場所が1か所でもできると結構ブームになるんじゃないかと思います。

○高門町長

分かりました。勉強します。

○藤川教育委員

6年目になりました藤川と申します。学校訪問に行くにつけ、やはり伊方町は教育に対してすごい熱を入れていてこども達が育っていることを如実に感じます。

特に、ICT教育について伊方町はコロナ前に先んじていろいろ取り組んでいたのも、コロナ対応も各学校スムーズに、自宅にタブレットを持ち帰らせて、それで体調の記録を得たり、宿題を配信したり、そういった活用がされているという事を学校からお聞きしてとてもありがたいなと感じました。

先ほど阿部委員も言われましたが、学校間をつなぐオンライン授業も、今年は学校訪問で見せていただきました。それこそ、今までだったら各学校の小さい人数の意見の広がりなさという事が課題と言われてたんですが、別の学校の意見を聞くことで、それぞれ意見の深まりができてるようで、とてもいい活用がされてるなと思いました。

何事も先に先に、もう2年後ぐらいを見通して取り組んでいかななくちゃいけないと本当に思いました。

そして、その2年後を見据えて早急に取り組まないといけないことが、部活動の地域移行です。もう国の指針として出てますが、これはもうみんな手探り状態ですが、どういった形で町は考えているのか。それから、町長としてもどのような形を望ましいと思われているのかをお聞きしたいと今日は思っております。

○高門町長

わかりました。ありがとうございます。私が聞きたいのでこれは教育長からお考えをどうぞ。

○中井教育長

もうご承知のように、部活動の地域移行はスポーツにしても、文化部にしても、令和7年に完了ということですね。

現在その移行については、いろいろなところで、検討されているというような状況です。愛媛県も現在検討している。また中学校体育連盟、この辺についても検討しているし、ほかの各協会についてもいろいろ検討しているようなところですね。

上の団体の方針というのがある程度固まらないと、それを受けてどう動くかというのはなかなか難しいというようなところがございます。

中学校の体育行事をどうするのか。大会をどうするのかというようなところ。それから、愛媛県、文部科学省ですけれども、どのような補助をしてどのような形にするのかということ。現在その補助については、ある程度の形が文部科学省のほうで打ち出されて、将来的にこういうような補助をしますよというのが見えてきています。

そういう中で愛媛県としてどういうふうにしていくかというのを今県のほうも検討中で、伊方町としてもそれを受けて、いろいろ検討しているところで中学校の教員アンケートであるとか、校長の意見であるとかそういう会を開いて、聞いたりアンケートで調査したりというような事をしております。

今後、保護者の考えであるとか、それから地域のスポーツ団体の考えであるとか、そういうところもしっかり聞いて、方向づけをしていかなければいけないというところです。

ただ、まだ見えてないのは、公務員について。公務員が部活動を手伝ったときの報酬であるとか、そういうところがどうなるのかということもまだはっきりしたものは出ておりません。それから教員の中で、そういうことをやりたいという方もおられます。役場の職員も、それこそ国体級であるとかインターハイ級であるそういう職員も大勢おられます。そういう方の活用であるとか、地域人材の活用、そういうところもあるわけですけれども、その公務員活用であるとか、地域の活用、その辺をしっかり今の間に人材を洗い出して、できれば来年ぐらいから人材の確保というのをある程度の形を決めて、言葉は悪いですけども囲い込むという。そういう形を少しずつ、次年度に向かってとっていかなければいけな

いのではないかと話し合っているところです。

○藤川教育委員

私もイメージがしにくいので教えていただきたいんですが、例えば役場職員の活用、先生にしてもスキルや教える力を持っていらっしゃる方の力を借りるのであれば、土日に教えるを請うときは、町から報酬を支払うという形になるんですか。

○中井教育長

これについて難しいだろうと思うんですけども、町からというのではなくて、現在の報酬は、国の方から、ある程度報酬を出せるような形のものが来ております。

そういうものを参考にしながら、どういう形にするのかということになろうと思います。時給いくらであるとか、1日何時間であるとか、そういう文部科学省の方向がある程度出ております。

○藤川教育委員

いい指導者に延ばしてほしいと思います。保護者も子ども達も思っていると思うんですが、それに対して具体的な姿が見えてきてないので、いろんな文献を読んでも、みんな手探りのようで。もしそういうところの方向性が固まりつつあるのであれば、お聞きしたいなと思っています。

○中井教育長

どこもはっきりした方向性というのはまだ見えてないです。ただ先に形を決めてしまった後で補助金であるとか、いろんな方向を修正しなければならないというのは、なかなか大変な力がいらいます。

そういうところで、県の方向、国の方向を見定めながら、それに付随してなるべく迅速に対応していきたいとは思っております。これも、なかなか難しいのは、民間のクラブとの調整とかそういうのも必要になってこようと思います。例えばスイミングであれば、かなりの金額を出して習っている。いろんなクラブがあります。そういうところの調整はどうするのかとか、そういうのもありますのでなかなかすんなりといく話ではないのではないかと思います、その辺りはいろいろ解決していこうと思っております。

○高門町長

これは一つの学校で部活をするということではなくて広域ですか。

○中井教育長

いろんな考え方があろうとは思いますが、例えば、伊方町の場合であれば、卓球部というのがかなりの学校でありますので、その辺りは広域でできるんじゃないか。野球部についてはもう一学校しかないんで単体になるだろうと思います。

○高門町長

逆に三崎の子で野球をしたい子がいれば入れるというのではないですか。

○中井教育長

そういう形も将来的には可能にはなろうと思います。

○高門町長

サッカーであれば、指導者がいれば町内みんなが集まったらチームできるんじゃないですか。

○中井教育長

そういうふうにしていけば、部活はかなり成立しないような形になろうかと思えます。現在の所は学校間調整をしなければなかなか難しいんじゃないかと思えます。

○高門町長

三崎から3人、瀬戸から2人とかの人数でもですか。

○中井教育長

その3人を抜いたら、卓球部が成立しないという。そこまでの状況になっております。

○高門町長

だけどサッカーをしたいからと言って町外に出ていく人もいますよね。

○中井教育長

それは現在の部活ではないですね。ですからそれはもうクラブになりますね。

○行天委員

土日に行かれてますね。そういう子は。

○中井教育長

クラブに入るという住み分けが現在のところはできてるんですが、今後もできるのかどうかというのもなかなか難しいなと思うんです。

○道元職務代理

普通の学校の部活動が最近はままならなくなってきた、極めたい子はクラブだとか、アスリートクラブとか、個人的に伸ばしたい子はそういうところにも通うんですけど、普通の学校の部活動っていうのは人数が減って、一つの学校ではできなくなってきたのが現状なので、その辺がやはり一番問題かと思えます。

○阿部教育委員

それを一つの学校では、なかなかこの少人数の中で学校の部活として成り立ちにくくなっているものを民間に移行するというのは、もっと難しい問題なんですよ。

特に今、卓球といういわゆる個人競技しかないんですよ。団体の人数ができないので。野球もできないサッカーもできない。9人、11人集まらない段階では、卓球しかなくて、卓球を指導できる地域の人を探すしかないんです。田舎ではそうなるんです。

○道元職務代理

隣同士の学校で間に合うような現状ではありません。本当に3校4校が集まらないと一つの部活にならないっていうのが、何とも難しいと思うんです。

○西村教育委員

保護者としてはやっぱり小さいときからやってるものを、できたら中学校と部活で頑張ってもらいたいという気持ちはあるので、今度の運動部活の地域移行で一体何の運動部が残るんだろうっていうのはすごい皆さん関心があります。

うちの子は今5歳なんですけど、中学校で部活に向けて一体何が残るのか。できたら同じ部活、同じスポーツを極めてくれることを望んでいます。

伊方町は本当に施設がとてすばらしくて、プールにしろ、野球場にしろ、体育館なんて、練習試合で来られた人達も皆さんびっくりして、「いつもこんないいところで部活してるの」って言われています。やはり環境はすごく恵まれているので、あとはやはりどの部活にするかとあと指導者ですね。その指導者の方も、今しばらくは休日だけになるけど、平日にまでになったら、今は仕事して、夜指導しているけれど、平日に指導するとしたらどうなるのかなとも思います。でも、するならばやはりその指導者の人がやりますと言える環境、地盤を作っていたきたいなと思います。

○行天教育委員

部活動の指導なんですけども、こどもが野球部に入っていてそういう目線もありながら見ていたのですが、先生が休める時間をつくるというのが本来の大きな目的なので、平日にある程度先生が教えて、土日はこのメニューをするように指示して、ケガしたときにすぐ対応できる保護者的な存在の人が、1人か2人つくことで指導者がいなくても中学生は練習できると思います。

指導ができるものはして、できないものは、こどもの自主性を重んじて、先生がいなくてどうやって工夫するか、こどもが成長する過程も大事なのかなと思ってるので、絶対どの部にも指導者が要るとは僕は考えてないです。

だから先ほど言われたように、手の上がる部活は、そうしたらいいんだけどできない部は元の考え方が先生の時間、教員の業務時間を減らすというのが大きな目的なので、何かあったときの対応ができる人がそこにいればいいのかなと僕は思います。

先生と生徒の絆がもうできておりますので、そこに突然優秀な指導者が来たとしてもなかなかすぐには絆ができません。上の子のときにバレーの教える方が来たんですけど、どうしても先生と意見が食い違ったりするので、部活をしている子ども達の考えというか、その気持ちがあって指導者が入っていくのかなと思います。最初はなかなか切り替わらないのでね。そんな感じで昨日は見てました。非常に絆ができてますね、子ども達と先生の絆が。

○高門町長

この問題はいろいろまた難しいことになりそうです。行政としては、形がいろいろでき上がってきた段階で行政として何ができるかを、後付けで考えていきたいと考えています。

○行天教育委員

いろいろ変更というか、フレキシブルにやっていったらいいのかなと思います。

○高門町長

私の子どもが小学生のときは、一つの種目に絞るんじゃなくて、何でも季節によってやれるような活動をやってもらいたいなと思ってました。

冬はバスケット、夏はサッカー、野球、水泳とか、そういうのを一緒に遊ぶとか教えてくれるそういう活動があればいいのになって思っていました。

○道元職務代理

昔は部活が学校の中にたくさんあったので、選択肢があったのですが、今は本当に部活自体が一つ二つしかないの、選択のしようがないんですね。

○高門町長

スポーツも文化も。スポーツなんでもやってみました。

○道元職務代理

本当にしたくても行くところがない。それが1番もどかしいですよ。

○中井教育長

今この部活の地域移行で二つの考え方、大きな課題解決というのがあるんですけども、一つは、教員の働き方改革、教員の土日の負担軽減と、もう一つは、やはり部活の多様化。それと部活の存続というこの二つの大きな目的というのがあるって、この地域移行であるとか、民間移行であるとか、そういうことを考えているということですね。

ですから、行天委員、それから道元委員の両委員言われたのが、一つの目的なんですよね。ただそういうふういきれいに行ったら言うことないんですけども、なかなか問題がありますので、もうちょっと国や県のいろんな議論を踏まえての動きになろうかとは思っています。ただその準備は、怠りなくやっていきたいと思っ

ております。

○藤川委員

先ほど町長が言われたように、それこそスポーツも色んなものを、何かに決めてしまわないで体験させるような機会が特に小学校とか年長さんぐらいの小さな頃からいろんなことができる。スポーツにしても、文化活動にしてもっていうふうなのが、機会を与えられるのであればそれは町の施策として、みんな魅力になるのではないかと思います。

それこそ、自分がどんな可能性を秘めているかわからないのが、絵の才能があるみたい。土曜日に木工であるとか、絵画であるとか今試みを始めているというふうな報告も受けたんですがとてもいいことだなと思いました。これを体育面でもそういうふうな形で少しずつやって、そのあとこども達のニーズを拾い上げていけたらいいのではないかなと感じました。

○高門町長

よろしくお願いします。先ほど道元委員が言われた、複式学級で背中合わせになっているという課題について説明をお願いします。

○中井教育長

これはですね、複式学級の授業の基本は同じ方向に別の学年が向いて授業をやるというのはほぼありません。

道徳とかそういう教科についてはあるんですが、算数なら算数で、大体こちらの学年は、その内容、こちらの学年はこの内容、内容が違ったら、方向が変わってそれぞれが集中できるような形で、それと教員が監督できるような形で行うというのが複式の一般的な方法です。一斉に授業するというのは、道徳であるとか学級活動であるとか、そういうような時間で行うという形ですね。

先ほど ICT の、複式での利用ということですけどもこれについては、例えばドリル学習であるとかは、自分の進度に応じてどんどん進めるということ。それから低学年の利用も、先ほど言われたように、頻繁にやるというのはなかなか難しいし、好ましくはないかもしれませんが、やはりそれに下の学年から慣れるというのは非常に大事ですね。

こども達は実際1年生から慣れておりますね。それより小さいときから慣れているような状況、逆にキチっとしたものを教えるというのは大事なことで、カメラであったり、インターネットであったり、そういう簡単な機能は教えて、ドリル学習とか、そういうものが必要だろうと思います。ただそれが全てということではないと思います。

○藤川教育委員

実際、私のこども達は複式授業を受けたんですが、あの頃に比べて格段にタブレットでこども達の学力は保障されてきているなというふうには感じます。小さい子たちが自分で調べて、どんどん進んでいく形がもう整っています。

これは、7月に行ったときに、低学年の子たちでもそうやって自分で学べる、態度ができていたのは本当すばらしいなと思いました。

ただ、道元委員が心配されていたような、みんなが下を向いて静かになっていう状態はっていう危惧されていたのも何となく分かるんですよ。その辺りの兼ね合いを考えながら、先ほど複式を解消するための支援員を配備するというのを教育委員会での報告を受けて、実際に大久小学校では、1人入っていただいてとてもいい流れになったと聞いているので、今後も皆さんに声かけして、こども達の不安を取り除いていけたらいいなと感じています。

○高門町長

長年の懸案でもあるんですけども、学校給食費に関して御意見を伺いたい。給食費の無償化、あるいは補助に関して。今年間で給食費が幾らぐらいかかっていますか。

○三好給食センター長

2,650万円です。

○高門町長

2,650万円というところなのですがどんなものでしょう。一方でやっぱり、保護者の責任として、給食費はちゃんと支払ってもらうのが筋という御意見もございます。

○阿部教育委員

何年か前にもこの話ありましたね。三、四年前かと思います。私はやはり我が子が食べたものは親が払うべき。子育てしているんだからという気はありますよね。負担だと思ってしまうんですけども、1家庭に割ったら、こどもが食べたものを、水やガスも向こうから払ってくれてくれるんだからという気に私はなりますね。

○道元職務代理

私は無償化できるなら、無償が望ましいなと。予算が使えるのであれば他の部分で補助をつくるより、一番受入れられやすいかなと思います。

○高門町長

予算は厳しいですが、皆さんがせよというなら検討はします。2,600万が毎年必要。

○道元職務代理

今は親の負担がすごいですね。何かにつけて。魅力的な町になると思うので

○西村委員

月4,000円ぐらいですよ。今は保育所の分は払ってますよね。

○高門町長

あれは給食代ではなくておやつ代なんです。あとは無償にしている。

○西村委員

私は払うべきかと思います。伊方町の給食費は他と比べてそんなに高くはないので。

○中井教育長

給食費は高いです。もう県下でもトップクラスだそうです。

○高門町長

そうですか。ただ9月補正で値上がり部分は補助するようにしましたが高いですか。

○中井教育長

上から三番目とかその位。結構高い位置にあります。

○高門町長

給食費は1か月いくら位かかりますか。

○三好給食センター長

1食あたり小学生が260円で中学生が290円。県内では12番目というけども、同じ金額のところが多いので、下から4番目のグループ

○行天教育委員

給食費について私は阿部委員と一緒に払います。無償はダメだと思います。

○高門町長

西村委員も払うべきというお考えですか。

○西村教育委員

私も払った方がいいと思います。無償だったらありがたいけど、やっぱりありがたみがなくなるんです。食べたら払った方がいいと考えています。ただ無償化が無理ならちょっと安くするとかは検討すべきかと思います。

○高門町長

「無償」「全額負担」「半額補助」ならどれがいいですかね。

○道元職務代理

自分たちの生活考えると少しでも安くはあったほうが、歩み寄っていただけ

ら助かるなど。特に、小学生までの小さいお子さんを持っている家庭がやっぱり一番大変だと思うので。

○中井教育長

一家族に小学生中学生5人とか、そういうところだったら、月3万円とかにはなりません。

○高門町長

今、低所得の世帯は無償なので。

○中井教育長

生活保護家庭ですね。準保以上で生保、準保は無償になっております。

○阿部委員

無償はほとんどいないですよ？

○中井教育長

かなりの数おりますよ。もう一割以上、二割近く。

○高門町長

これは4対1ということで、今しばらくまたの課題に。私もずっとちょっと引っかかってはいるんです。今、ずっと物価が高騰してきたらね。

○阿部委員

いきなりの無償化じゃなくて、9月から1食20円補助していただいているみたいに幾分か補助率を上げてもらえれば、それはありがたいと思います。やはり、我が子が食べた分は、親の責任だと私は思います。子育て終わっても私は孫達がいまいますので、息子達の気持ちはよく分かるので息子からは反対するんじゃないと言われるかも分からないけれど、食べたものはやっぱり払えと言いたい。

○高門町長

いくらか分の補助を考えていくと。

○阿部教育委員

少し補助していただくというのはありがたいですね。高いかもしれないけどうまいですよ。自信持っていていいと思います。残す人もいるけども。高校生と話すけども、関東や関西いろいろな所から来て給食を食べたこどもが三崎高校の給食がこれまで食べた中でこんなおいしい給食無いとみんな言ってくれる。

昼もお弁当じゃなくて昼の給食がいいので私はこの寮に入りましたという子がいるんですよ。

○高門町長

今まで色々とコロナ対策と物価高騰対策でプレミアム商品券を実施して、運送業者に対してガソリン代の補助、今度は漁業者、農業者に対して肥料とか飼料とか運輸代だとか、そういったものの補助を打ち出そうとしています。

その中で、学校給食は今のままでいいのかなと考えていました。参考にさせてもらいます。

○道元職務代理

大綱 3 番目の、伝統文化の継承に関して 3 つほどお願いがあります。僕は結成されて 17 年になる佐田岬みつけ隊で町見郷土館のボランティアサポーターとして毎年度末に文化財施設の掃除等をやっています。

その中で九町の奥地区に梵田という石造物あるのですが、ここ 10 年近く前から建設会社のテントの様な物で覆い、保管というのか保護というのか、劣化を防ぐ措置をずっと続けています。毎年草刈りや掃除に行くのですが全然拝める状態ではない状況です。何とか保管方法の見直しができないかお願いしたいです。

○郷土館 高嶋館長

九町の奥地区にあるいわゆる石塔です。鎌倉時代中期ぐらいまで遡る石塔の一部があったのですが、上に乗っている笠が割れ崩れてきたため、さらに風化してはいけないということで建設会社に相談したら足場を一組いただけだったので、テントで囲んで仮の応急処置的な覆いをしました。それから 10 年位この状況が続いています。

○道元職務代理

文化財とは言いがたいような状況です。

○郷土館 高嶋館長

得能主膳ゆかりの地の一つとして修復すると想定していろいろ見積もりを出しましたが、すごく高額であるため目途が立たず、現在に至っています。

○道元職務代理

悩ましい所ですけど。

○高門町長

そういうのは、行政がタッチすべきものではありませんか。

○中井教育長

町の文化財指定は受けているのですか。

○郷土館 高嶋館長

町の文化財です。

○道元職務代理

地元の有志とかがその保存とかしているのだったら、自分達でできる部分もあるんでしょけれど、何せ文化財なので。

○郷土館 高嶋館長

基本的には所有者の方が守っていくものではあるんですけど、今回のその石塔の倒壊は余りに費用負担が大き過ぎるものなので。

○高門町長

梵田の石塔だけ補修すると、これも直してあれも直してといろんなところに影響が出てきませんか。

○郷土館 高嶋館長

町内に同じような文化財はそんなにありません。梵田の石塔はもうあれだけなので、それに関して声は上がらないかなと思うのですが。いざ手がけようとなるとすごい高額になりますから、単体で補修することはすごく難しくて、いろんな文化財関係のいろんな取り組みと一緒に合わせて、どうかと模索した事実も何年も前にありましたが、動かないままになっています。

○中井教育長

町指定の文化財でしたら、修復のためのある程度の補助は行わなければいけないのがありますが、割合とか額とかその辺はあるのですね。

○高門町長

補助だったら所有者の負担が必要になるわけですよ。

○郷土館 高嶋館長

そこがまたちょっと微妙なところでして、その土地が一応個人の方の名義になっているんですけど、おそらく奥地区の共有地みたいなところだったのを、ずっと昔にその頃の区長だった人のところに名義を変えたのではと考えています。

○高門町長

いろんなそういう事情はあるんだろうけれども町指定の文化財って全部でどのぐらいあるの。

○郷土館 高嶋館長

24 件位です。

○高門町長

それが、そういう状況になったときに、町に何とかしてくれっていうことにな

ってくるのですか。

○郷土館 高嶋館長

所有者の負担に耐えられなければ、申請していただいたら一応制度はあって、何分の1は幾らという感じの対応はしています。

○高門町長

制度に則ってということですね。

○道元職務代理

四方を全部工事用テントみたいなもので覆って鎖をかけてるので今は全然見えない状態です。

○高門町長

まずは、それを管理してる人がどうするかというところを、進めていただかないとですね。

○道元職務代理

その保管状態の見直しみたいなことを幾らかでもできればと考えています。逆に困ってしまっているが故に、今度は乾燥状態ができてしまって石がもろくなってきているというのが現状です。

あと文化財に関してなんですが、観光の部分でもいろんな方をお連れするんですけど、観光案内板に音声ガイドのQRコードがつけられないかと思っています。団体客を案内しても、後ろ半分は別行動して説明を聞いていないです。なので、音声ガイドのQRコードをつけてもらえたら、学校関係の町内めぐりですか、そういうのにもいろいろ活用できるんじゃないかと思います。

○濱松副町長

技術的にはできないことはないでしょうけれども、観光案内板が現在、町内にどこにどのような姿であるのかというのは全て調査しました。相当な数がありますので。このQRコードの音声ガイド、これは非常にいいことだとは思いますが、けれども、こういった形で少しでも実現できるのか、これはやはり検討はしないといけないのかなと。

一斉にというのはまず無理で徐々にという形になりますし、それもどういう経費を使ってやるのかということも検討させてもらわないといけないんですね。

今はデジタル化というのが叫ばれておりますので、そのデジタルと絡めて、国の補助等の申請を考えていくというのが考えられることかと思っておりますのでその辺もちょっと検討させていただきたいと思います。

○高門町長

佐田岬灯台の大砲のところにはQRコードを付けたみたいです。とにかく、ぼろ

ぼろの看板が多いんですよ。

○道元職務代理

多いですけどきれいにしてもらってるところもあります。「あこう樹」だとか、「赤坂の石塔」にしても。天然記念物の「あこう樹」だとか「三崎の灯台」とか割と皆さんが足を運ぶところぐらいは、試験的にみたいな形でスタートしてもいいのかなと思います。

○中井教育長

文化財関係では音声ガイドではないですが、QR コードは野坂の石垣や八坂神社に貼り付けたんですよ。読み込むと HP の文化財ページにつながります。これから、文化財に指定されているところに順次 QR コードを入れていこうとはしておりますが、音声まではまだ考えていません。

○道元職務代理

特に今の時代コロナで喋れないのでなおさら音声ガイドがあればいいのですけれど。

○高門町長

一昨日、町の PR イベントを東京駅で行いました。伊方町のみかんを 1 個ずつ配ったんですけど、袋に QR コード入れてふるさと納税のページに繋がるようにしました。

○道元職務代理

そういう紐づけができるといいですね。それも、今のデジタル博物館とかに紐づけができたりするといろいろ見ることができますから。

○中井教育長

先ほどの梵田の件は、教育委員会の要望みたいなものですので、私のほうで確認して、どういう対応ができるか考えさせていただきます。

○道元職務代理

先日のみつけ隊総会で、高嶋館長も同席してもらいまして佐田岬ミュージアムが完成した際に中のボランティアガイド的な役割への報酬や養成講座といった部分を立ち上げてほしいという要望を少し投げかけたんですけどいかがでしょうか。

○郷土館 高嶋館長

それはこちらから提案した案件ですね。

○道元職務代理

私はやりたいです。その養成講座で育成してもらったら、広く町内から募集して、博物館運営にすごく役立つんじゃないかなと思っています。

○阿部教育委員会事務局長

9月補正で予算通りでしたので、おっしゃるとおりのプランで今からやろうと思います。

○道元職務代理

よろしくをお願いします。

○高門町長

ぜひお願いします。博物館だけじゃなくて、佐田岬半島全体をガイドしてくれるネイチャーガイド的な人材も欲しいと思っています。色々な地元を紹介してくれる方が、有償ボランティアでも結構ですのやっていただけたらなと思っています。

○阿部教育委員会事務局長

先日、総会で高嶋が願ったのは、みつけ隊の方のスキルや知識をガイドに役立ててもらえないだろうかというお願いだったかと思っています。

○濱松副町長

これからは観光振興であれ、いわゆる文化振興であれ、やはりガイドは必須です。できれば英語や外国語ができるガイド。それはやはり有償が原則です。しっかりとガイドをつけて、町内を案内して、体験プログラムでお金をいただくところに持っていきたいと思っていますので、十分に検討させていただきたいです。

今、町長言ったようにネイチャーガイドは全国公募しております。ちょっと条件が高過ぎたので、もう外国語、英語ができるやる気のある人でいいかなと思ったりもするんですけども、要件もちょっと再検討させていただきます。

○道元職務代理

翻訳機能をデジタル博物館関係の部分で紐づけてもらえば、英語・韓国語・中国語の対応ができていいんじゃないかと思っています。

○高門町長

気持ちは大事ですよ。ありがとうございます。ぜひそういったところは全町的な取り組みとして力を入れていきたいと思っていますので、高嶋館長もぜひ、具体的な形になるようなシステムをつくり上げてください。

○西村教育委員

お伺いしたいんですけど、伊方町には児童クラブはありますが、「放課後デイサービス」みたいな、障がいを持ってる子たちが、自立訓練をしたりソーシャルス

キルトレーニングをしたり生活訓練をする場所がありますか。

○高門町長

そういった場所はないと思います。

○道元職務代理

この近くだとどこがあるのですか。

○西村教育委員

伊方町と大洲市と西予市が八幡浜市にある「巣立ち」が対象地域になっているのですが、伊方の子たちは行ってるのかなと思ひまして。

○中井教育長

行ってる子もおりますね。確か「巣立ち」に、行ってる子もいたと思います。

○西村教育委員

休みのときとかにちょっとまた先生たちの負担になるかもしれないんですけど、やっぱり地元でいろいろな訓練ができる機会があればいいなと思います。

○高門町長

障がい児たちの機能訓練。

○西村教育委員

生活訓練です。コミュニケーションやいろいろな生活訓練。

○中井教育長

費用対効果、ニーズですよ。ね。「巣立ち」の場で、退職教員とか、専門の支援員とか、その辺を入れての、スタッフ何人かを用意してというところで。ニーズも結構ありますよね。伊方町からも福祉のほうで補助を出しているはずですよ。

○高門町長

そこかどうかわかりませんが、八幡浜市から負担金を求められて出しております。

○中井教育長

伊方の子も参加して構わないという。僕はそうとらえておりますが、ちょっと所管が違うのではっきりとは言えません。

○高門町長

町単独でそれをとというのはちょっとどうかと思います。勉強不足でよく分かりませんが、できる範囲内かどうかというのはあると思います。

いろんなそういう細かいところに手が届くというのが、住民としては、求めるものだろうし、ありがたいことだと思いますけれども、どこまでやるべきなのか、やっていいのか。

これは、人を雇ってやるっていうことになると、当然コストもかかってくるし、それはやはり、町民の税金から使わせてもらうというところで判断させてもらいたい。

やはり必要ですよっていう事であればまた相談にのらせてもらいます。福祉の方とも、こういう声があったっていうことはお繋ぎします。

○西村委員

ありがとうございます。

○道元職務代理

図書館を割と利用するほうなんですけど、伊方町の図書館は本棚の高さがすごく高くて、天井の高さはもう仕方がないかもしれないんですが、非常に見通しが悪い。あまりにも資料を豊富に入れてもらってる関係上、余裕の空間がないので、配置を変えれば幾らかでも、広く見渡せるような工夫ができるんじゃないかと。余りにも何か伊方町の図書館の環境が狭苦しくて、残念だなと思ってて、せっかく新刊も毎週たくさん揃うし、こんなに充実した図書館はないのにとってるんですけど。

○阿部教育委員会事務局長

狭いですかね。

○道元職務代理

やっぱなんかね、保内や八幡浜なんかに比べると、余りにもゆとりがありません。

○阿部教育委員会事務局長

他所とは蔵書数が違う気がします。

○道元職務代理

もっと本棚を壁に全部持っていくと中の空間がとれるかなあと思ったりもするんですけど、高いので本棚の高さが。あの辺上手に、図書館なのであんまり光とか入らないほうがいいと思うんですよ。蔵書的には日焼けするので。その辺もちょっと何か工夫ができるんじゃないかなと思うんですけど。

○阿部教育委員会事務局長

御意見いただきながら検討させていただきます。

○道元職務代理

上手に配置替えできるんだったら何かやってもらいたいなと思います。

○高門町長

電子図書館も充実したそうですね。

○道元職務代理

そうですね、こども達がよく使ってますね。

○高門町長

こども達も、大人ももっと使えるようにもうちょっと使い勝手がよいように。

○道元職務代理

なかなか新刊が読めないのが難ですけど。

○西村教育委員

図書館は本当に私もこどもも大ファンなんですよ。坪内さんが来られた時はクイズラリーがあって、できたら甘納豆もらいました。その季節に応じたいろいろ飾りつけをしていただけていて、クイズラリーが本当に多くてこども達も大好きなんですけど、ピップスお話し会もすごい息子が大好きで、毎月行くんですけど、残念ながら参加するこどもが少なくて、前回も2組。その前も多分2組ぐらいなんで、電子図書もいいんですけど、もっと図書館に足を運んでいただけたらなと思います。

○道元職務代理

役場の前の駐車場なんですけど。立体駐車場案とかありますか。

○高門町長

ありません。

○道元職務代理

あまりにも、公用車と職員の車ばかりなので、あの広い空間もったいないな、来客用は40台分ぐらいあればいいんじゃないかと思っています。無断駐車の方が多んじゃないかと思ったりもするんですけど。

○高門町長

無断駐車はあると思います。内部で話したときに、駐車料金を取ったらどうだっという意見が出たんですけども、そしたら多分減るでしょうね。バーを置いてね。だけど、そこまではするのはどうかというところなんです。立体駐車場は相当経費がかかると思います。今のところは頭にないですね。

○道元職務代理

何かこう、あそこの敷地が半分でも緑地公園みたいな、広場になったらいいなあと思って。いろんなイベントだとか、町民の何か憩いの場みたいになると、すごくいいなと思ってんですけど。

○高門町長

それを狙って隔週の土曜日にマルシェをしています。なかなか思ったよりは、コロナや天候の関係もあったんだけど、人出が思ったよりも少ないです。

それと、町内の方の出店者がなかなかやろうっていう人が、集まってくれないっていうのが現状です。先々週は町内事業者2件です。あとはみんな町外。何かもうちょっと、みんなで盛り上げてほしいと思っています。

運営側も一応、12月までです。来年度は月1回にしてもっと内容を濃くするか、いろんなことは考えてもらっているとは思いますが、また協力とお知恵を貸してください。

○道元職務代理

まだなかなか告知が行き届いてないっていうのもありますね。わりと第1第3と月に2回もあると覚え切れない。それこそ八幡浜の八日市じゃないですけど、固定日を決める方がまだわかりやすいと思ったりするところもあります。

○高門町長

その辺りは改善しながら、ぜひここにやっぱり、三崎に「はなはな」ができて、瀬戸に今度は博物館ができる。そこを拠点にしたいと思っていますが、やはり伊方はきらら館だけじゃなくて役場前ににぎわいを持たせたいというところが始まりです。

○西村教育委員

この前の警察のバイクとパトカーが来たときは、ちょうどその日は保育園でお祭りをしてたので、そこから帰る人たちが来ていました。体験できるイベントはこども達がとても喜んでくれました。お店だけじゃなくてそういうちょっとしたイベントみたいなのがあればたくさん人が来るのではないのでしょうか。

○高門町長

唐獅子がすごい人出でした。それが終わるとみんなサーっと帰って行きました。

○道元職務代理

それは皆さんあまり食だけを求めているってことじゃないのかもしれないですね。

○高門町長

でしょうね。

○行天教育委員

最後に私のほうから要望ではないんですけど、9月29日に松山市で「学校家庭地域のつどい」というのが生涯学習センターでありました。三崎高校の子ども達が出ていました。県内の「幼稚園」「小学校」「中学校」の関係者が集まるつどいでグループワークみたいなものもありまして、三崎高校の生徒ともいろいろ話をして、伊方町のほうからいろいろ協力いただいて、子ども達は県外から集まってきた子もいるので、お話をさせてもらったときに、将来は何になるのと聞きましたら、伊方町に帰って学校の先生をやりたいという子が何人かおりました。

ここにありますように、「ふるさとを愛し」ということでうまくいってるのかなということで報告させてもらいます。

県外の子は、どんな仕事をするのって聞いたら、仕事は決まってないけど地元に戻る。三崎に来た子はここで地元愛という種をまいて、それが関東とかの地元に戻るって育つということができているんだなという事を感じたので、皆さんが居る場なのでお話しさせていただいて、これを続けていただきたいというのがあります。

それで、ここからがちょっと要望ではないんですけど、今のところ、公務員とか先生とかという職業が限定されるので、他に職場というか雇用ができるようなものがあたらいいなというのが感じたところでございます。

隠岐かどこかの島ですね、「Iターン」「Uターン」ということで、一つの仕事に募集をするんじゃなくて二つか三つぐらいある中から、漁業と林業と農業とか、組合せる。一つでは生計が成り立たないの二つ掛け持ちでやるとかそういうのもいいのかなと思います。

仕事があればまた子ども達が帰ってくる。職場があるってそういうところがあるのかなと思います。何かいいなと思いました。

○高門町長

ありがとうございます。これは事業組合なんですけれども副町長の方で検討してもらっています。伊方に取り込める職業があるかどうか。テレビに出た方は手取り20万円位だと言っていました。農業漁業でそれだけ払えるのかなと思うところは一つあります。

いろんな事業者をひっくるめて、何年かの間に自分に合った職業を選ぶというような組合だったと思うんだけども研究してみたいと思っています。

三崎高校の話が出たので、高校再編でこれから県内の高校が少なくなっていくと思います。私は逆に今、危機感を持っています。八幡浜市で、「八幡浜高校」「八幡浜工業高校」「川之石高校」これが一つになると、地元の子たちがそちらに流れていくのではないかという危機感を持っています。三崎高校は相当頑張らないと、地元の子もそれから県外の子も頑張っていけないと、なかなか厳しいことになる可能性もあると思っています。その辺も含めてまた皆さん方のご協力を得ながら御指導もいただきたいなと思います。

おかげで本当にいい高校になった。これだけは自慢できる。しかし、将来も安泰かという、一方では危機感持ちながら、やっていけないといけないかなと思

ってます。

○濱松副町長

今町長が言ったようにいわゆる副業ですね。「複数の業」「副業創出事業協同組合」というものをどういう形であれば、実現の可能性があるのか。そこら辺は十分検討をさせていただきたいなと思っております。

やはり町長がもう最近常々言われてるんですけども、人口減少問題が町にとっても非常に大きな課題でして、それをいわゆる鈍化させる。下支えするというためにはどうしたらいいのか。それは、やはり仕事と住宅をつくらないと駄目なんです。

やはり仕事の創出、雇用の創出というのは、最も注力すべきテーマとして、取り組んでいきたいと思っておりますので、そこはまた副業創出事業協同組合的なものを十分検討させていただきたいなと思っています。

○西村教育委員

ICT の話があって、タブレットを大分前から小学生も中学生も持ち帰りをしていきますけれど、小学生よりもやはり中学生が何か持って帰るだけになっているところがあるし、よく聞くのは持って帰っても、YouTube だけを見ていると。いろいろソフトは入ってるんですけどそれを活用しているのかなというところもあります。

帰ってからは親の責任でもあるんですけど。親の教育力というかもうちちょっと頑張っただけで管理というかそういうのもしていきたいなと。要望じゃなくて自分の感想です。

○高門町長

学校のタブレットは、フィルターは相当かかっているんですよ。

○阿部教育委員会事務局長

フィルターはかかっていますけど Youtube は見ることができます。

○中井教育長

そのような面では安全です。学校の考えもあるだろうと思います。また、学校と調整していただいたらと思います。

○阿部教育委員

ひとついいですか。CMになるかもしれないですけども、人口減少ということで、三崎の漁協に、御存じの方が多いと思うんですけども佐賀の県職員をやめて、素潜りに挑戦している子がいて、その子がどのような気持ちでここに来てどのように取り組んでるかというのを3か月 NHK が密着して撮影しました。

その先輩ということでうちの息子もずっと船にカメラを積んで、何回も漁に出たようなんですけど、11月4日の四国羅針盤で、四国4県で放送があります。11月

12日のDearにつぼんというNHKの朝10時からの全国放送で同じ内容があります。ひょっとしたら、この人口減少の一役を担った1人の思いが伝わる番組をNHKがつくってくれたのかもしれないのでぜひ時間のある方は見ていただきたいと思います。

全然関係ないところで部活動の話がありましたけど私的に言ったら、部活動があるので土曜日に親父について海に行かない、山に行かないこども達に、親父、お袋がどんな思いで山をしているのか。どんな思いで魚とっているのか。どんな思いでサザエとっているのかを分かってないまま大人になったら、漁師や百姓にはならないのかなというところがあって、私達のこども時代は部活動にそこまで一生懸命じゃなくて、勉強せずに部活に行くだけだったら頼むから消毒手伝ってくれ、頼むから天草を干してくれと言われて育った人間なので、私は漁師になったのかなと思っています。

1番最初に言ったように地盤を固めていかないといけないと思います。部活動が駄目ということじゃないけども、自分達大人が生き生きした姿を見せていかないとこども達には伝わらないのかなと思ったりもします。

○高門町長

貴重なご意見ありがとうございます。

○道元職務代理

その中で、三崎高校生で料理がすごい生徒がいます。特に魚のお刺身料理がすごい。何か特集できるぐらいの魅力を持っているので、高校のPR以上に機会があれば表に出せるんじゃないかというくらいすごく優秀ですごい生徒がいるなと思っています。どこかで取上げられたらいいなと最近すごく思っています。

○高門町長

すごくユニークな子が本当いますよね。

○道元職務代理

びっくりしますよ。その辺のもう料理屋さんかなわないから。

○高門町長

ありがとうございます。

大綱に関する訂正・変更等意見はないため、大綱について承認された

5. 副町長あいさつ

それでは今年度第1回の総合教育会議ということで、教育振興の方針、展開について委員の皆様から貴重な御意見をいただきました。

できるものから一つずつ、実行に移していければというふうに考えております。今、町長のほうの提唱でですね、集落のグループホーム化、それから日本有数

の子育て支援の町いうのに取り組んでおります。

それは高い高齢化率、そしてまた人口減少、こういった課題に対応するためのものがございます。

そういった中で、健康長寿の町、キーワードはヘルスです。子育て支援の町、キーワードは、エデュケーション。それからデジタルライフのまち、キーワードはICTということになります。

こういったところを、しっかり取り巻いていって、教育の面では、ふるさと教育、それから、幼児、いわゆる幼保一体ですね。幼児教育、部活動、それから、給食費の問題は子育て支援の一環として出てきました。

本日、委員の皆様からいただいた内容というのは、そういったところに通じるのかと思っております。

今後、この高齢者福祉の面では顔認証パスを通じて、高齢者の方の健康管理であるとか、そういったデータを収集していくというような、そういう取り組みが実行に移る段階になっております。これは高齢者に限らず、町民全員のビッグデータを収集蓄積して様々な取り組みに生かしたいとのことでございます。この点につきましてまた委員の皆さんも、ご協力をいただければと思っております。

それから子育て支援についてもこれは県下一と言っているほど伊方町は子育て支援が充実をしております。さらなる充実、そういうやっぱり差別化を図って、伊方町が選ばれる、振り向いていただけるような、そういう地域を、これも町長の提言でございますので職員一丸となって目指してまいりますので、この点についてもご理解とご協力を賜ればと思っております。

いずれにせよ教育は非常に重要なことでございますので、今後ともよろしくお願いを申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

6. 閉会

以上で、本日の総合会教育会議は、閉会とさせていただきます。
皆さん、大変お疲れさまでした。